

No 2 「図書館維持管理事業」 「田川市立図書館運営事業」

担当課	(資料に基づき事業説明)
委員	資料P 2 4、2 5を見て、目を引くのが電気代であるが、年間に4 0 0万円、月々平均3 5万円でかなり高いと思う。先ほどエアコンの話になったが、年間、夏の3か月、冬の3か月と考えた時に、どうしても電気代が高いのではないかと感じる。そのあたりはどうか。
担当課	私たちが非常に電気代が高いと考えている。図書館自体が非常に古いということと天井が高いということ、造りそのものが今の感覚と違って、通常より沢山電灯を設置しなければ明るくないなどという面もある。エアコンも古いため、大量に電気を消費している。今の時代、LEDなどに変えて、節電を図るということを内部では検討をしているが、毎年電気料には悩まされているので、早急な見直しを考えている。一部で非常灯関係はLEDに変えたが、まだ変える箇所は沢山あるので検討している。
委員	この図書館自体が昭和2 0年代に設置され、昭和4 6年に建設し、現在の図書館が平成3年に増築した部分となっているが、耐用年数的にはどうか。
担当課	昭和4 6年に建設されたのが今の建物で、それ以前の建物は全く残っていない。平成3年には増築している。現在、耐震調査をしているが、かなりしっかりと当時から作られている。全く問題ないということではなく、若干の耐震の補修をする必要があるが、かなり強度が高いので、まだ構造的に持つと考えている。
委員	4 0年経過しているが、耐震補強をすれば、まだ持つということで理解した。
委員	基本計画について、広報や対象の見直しと言えるか分からないが、市民1人1人に対してだけではなく、学校、老人会、子育てサークルなどの団体、他の地域の図書館や図書館のない近隣の市町村の住民の方々も視野に入れて事業展開が必要なのかと思うが、広報、連携についてはどうか。資料P 2 3にある郷土資料を含め古くからの貴重な資料を収集して量も沢山あるが、職員の人数も限られているので、十分保存、整理、利用の提供というのが、なかなか難しいと聞いた。そのような郷土資料の保存、整理、利用の提供について、その3点はどんな風に基本計画の中に含まれているのか。あるいはどのように入れていくかということを教えてほしい。
担当課	今後作っていく基本計画の内容について、まだ具体的なものにはしていないが、図書館の運営方針を決める「図書館協議会」というものがあり、それに業務改善提案書を提出し、その中で今後どのようなことをやっていくか示しているような段階としており、まだ明確にはなっていない。連携に関しては、図書館自体は相互貸し付けということで、他の図書館と貸し出しやリクエストの協力を行っている。田川市の住民若しくは、田川市に勤務している人が、田川市の図書館に来館し必要な本がない場合は、図書館のネットワークで検索して、ある図書館からその本を取り寄せて住民に貸し付けるということが連携で行われている。学校図書館との連携については、自動車文庫に本を積んで各学校の図書館を回って、図書を配布しているという状況で連携をしている。このように連携を行っているが、図書館の基本的な理念の中に、「どこでも誰でも」というものがあり、どのような方でも利用できて、どこにいても活用できるという事業で、例えば、田川市の本でも添田町の図書館に貸付をしながらやっていくなど、ネットワークを駆使して、少ない蔵書の中で不足しているものはお互いにやりとりしている。新しい図書館像で具体的にどのようなことをや

	るかについては、今後、調査を進めてやっていきたいと思っている。
委員	今の自動車文庫にどのような図書があるのか。児童向けが多いのか。
担当課	自動車文庫については、児童向けと小説などが結構多い。専門的な本は図書館で読んでもらい、住民サービスの部分を自動車文庫で行っている。
委員	図書館へのアクセスについて、高齢者や交通があまり便利ではない地域に住んでいる方に対して、高齢者向けの図書や自動車文庫を回すというような配慮はしているのか。
担当課	基本的にそのような地域に持っていくということで配慮している。各地の公民館も回っており、老人ホームなどから来てほしいという要望があるので、そのようなところにも一部入っている。
委員	いつでも誰でも行って自分の見たいもの、読みたいものに目を通して自分の知識を深めていくという図書館があると市民にとっても非常にありがたいことだと思う。前回の事業仕分けのときに「維持管理と運営を1つに統合できないか」という意見が出たが、そのことについて、その後、どのように考えているのか。
担当課	これは基本的に一体にできると考えている。住民サービスの向上という点から、今、指定管理者制度を検討している。一例として、武雄市が来年度からTSUTAYA（ツタヤ）を指定管理者として導入予定である。本市の現状では、17時～18時に閉館し、福岡県下の同等程度の自治体では閉館日数をもっとも多い図書館であり住民サービスの観点から見ると、いかがなものかと思う。これについては改善できる場所なので、次回の基本計画の中では、他の図書館よりも上をいく図書館ということで、「開館日数300日、開館時間夜8時まで」ということを念頭において計画を作っていきたい。それが直営では困難ということであれば、指定管理者、民間委託ということも視野に入れて住民サービスという観点も向上させなければならない。単に図書館理念の素晴らしい部分をピックアップするのではなく、皆が求めている図書館に変わっていかなければならないと考えている。
委員	指定管理制度の導入という意見が出たが、果たしてそれで良いのかと疑問に思う。確かに開館日数が増え、遅くまで見られるという利点はあると思うが、全部を指定管理にするとそこに委託料などが発生する。「図書館維持管理事業」「田川市立図書館運営事業」も同じ「本に親しみを持ち生涯にわたり学習できる状態」という目的を持っている。田川市にしかない貴重な蔵書を持っているので、もう少し拡大して内容をもっと充実させて、どんどん来てもらう。時間を延長することについては、その時間帯に管理する職員を雇うなど、そのような時間の問題は解決できるのではないかと。そのような意味で拡大しても、運営方法は維持して欲しいと思う。
委員	今、開館日はどのような感じなのか。
担当課	閉館日で説明すると、毎週月曜日が閉館日で、第3週だけ日曜日が閉館日となっている。その他、蔵書点検として1週間程度、閉館し、毎月月末を館内整理日として閉館している。
委員	福岡県内でも開館日数が少ない中で、この電気料などのランニングコストはどうにかしなければならない。長時間になるとランニングコストを削減しなければ、どうしようもないと思う。年間400万円ということだが、今朝の新聞では、九州電力が来年4月から値上げの方向という記事もあったので、太陽光や断熱材などリフォーム的な部分を視野に入れた経費の比較を行い、運営方法を考えてほしい。

委員	指定管理については他の市にもあるそうだが、図書館は収益事業ではないので、指定管理者として受ける対象はあるのか。このようなコストを全部委託料として払って全面的に任せてしまうことになるのか。それとも図書購入や維持管理、修繕などの一部を市の負担でというやり方になるのか。
担当課	全国の自治体の図書館のうち約10%が、指定管理を導入しているような状況だが、やり方はそれぞれの図書館で違う。全部任せているところもあるが、そのようなところは、民間の業者でもほとんど図書館専門でやっている業者であり、福岡県下の2市は、そうである。他のところは財団法人など、基本的には文化に関連するような財団法人や複合施設で他の施設と一体的にやっているというところもある。政策に関わる部分は別にして、全体を任せるとしても、ブックスタート事業などは、0歳児から本を渡して本を読む習慣をつけようというような事業であり図書館で展開しているが、そのようなことを切り離して、生涯学習課がやるなど別のセクションで実現していく。政策的なものもあるので、その切り分けをきちんとしなければ、指定管理者に任せた結果「政策的なものが全く進まなくなった」ということもある。したがって、そのような管理部門だけは別にして、どちらかという指定管理者というよりも委託という感じが強いようなイメージの指定管理をしているところもある。
小委員長	今、どのような選書の方針であるかを教えてほしい。
担当課	蔵書構築については、県内の図書館の中では非常に少ない状態である。理想を言えば沢山あるに越したことはないが、予算との兼ね合いがあるので、ただ単にお金を沢山もらえば蔵書が増えたという感覚でやっていくのは、田川市としては相応しくないと考えている。ただし、寄付の受入れは考えているが、本のゴミ箱みたいになってしまうと市としては困るので、新しい本で読まなくなった本を募集することなども今後考えていきたい。しかし、一番の問題点は、それを整理する職員が必要ということ。今、コンピュータシステムも流通しており、新刊本を買うとバーコードなどのラベルを貼り付けて納めてもらえるため、手間が掛からずに図書館に並べることができる。ところが、寄付をいただいた場合は、自分のところでそれを作成しなければならないので手間がかかる。したがって、全部を寄付で賄うということとはできない。できれば子供の絵本など、大きくなると見なくなるので、そのようなものは予算をあまりかけずに集めていきたい。それ以外の書籍に関しては、もう少し予算折衝して購入したいと考えている。
小委員長	昨年度（H23）の場合、約842万円を図書購入費に充てているが、結局その蔵書をどう構築していくかが、図書館の方向性、どのような分野について今後、強化していくのかということになると思う。今、児童向けの本の話がでたが、「いつでも誰でも」という図書館法に基づいた方向性がある中で、「どのような方針でどのようなジャンルの本を購入していく」ということで、この840万円を使っているのか。その選書は、どのような形で誰が実施しているのか。
担当課	住民の方はかなり図書館を利用しており、高齢者の方も多く利用しているというのが現状。夏休みには、子供たちも沢山来館するため、絵本などが不足している。改善計画を作る際に統計を色々集めたが、田川市の場合、児童書が不足しているということが判明した。他の図書館では、全体の蔵書の中で25%くらいが児童書であるが、田川市は16%と、割合が低くなっている。利用者の中には高齢者も多いので、用途に応じたものを購入してい

	<p>かなければならない。現状は図書館の司書がどのような本が必要かを選定しながらやっているが、専門的な本を全く入れないというのは図書館としては良くないので、時代に即したのもや専門的な本等も含めて少ない予算の中で、児童書も増やさなければならず、司書としては非常に頭が痛い状況ではあるが、今後の方針としては、絵本を増やしたいと考えている。</p>
小委員長	<p>きちんとした蔵書構築方針というものが定まっていて、計画的にしているというよりは、予算の範囲の中で可能なことを勘案しながらやっているということと理解できた。WEBサイトを見ると、「ブックスタート事業」や「子供向けの読み聞かせ会」というようなイベントが充実しているようであるが、ビジネス利用なども視野に入れた場合に、大人向けの図書館ならではの企画展やイベントが今年度のカレンダーを見る限りでは見つけられなかった。他市の図書館では、そのようなビジネス利用の促進など、県立図書館レベルではなくても市町村の図書館でも大人向けの取組をやっているようなところもあると思うが、ビジネスやキャリアアップしていくための手段として利用していくような蔵書をいかに増やしていくか、そのようなイベントの実施について何か考えているか。</p>
担当課	<p>それについては検討しており、基本計画の中に織り込もうとしているが、大人向けのイベントとして「レコードコンサート」を毎月行っており、「郷土史研究の発表会」というものを年間5回くらい行っているが、図書館自体に発表するような部屋がない。2階に自習室が1つ、1階は図書を配架しており、イベントを行う場所がない。他市の図書館には2階にイベントを行うような部屋があり、ビジネス支援説明会や商工と連携して新しい会社を立ち上げる研修会など、様々なことに取り組んでいるところもある。その地域の必要性に応じてやればいいことなので、田川市にどのようなことが必要かは検討しなければならないが、そのようなこともやっていきたい。田川市の図書館で非常に悩ましいことは、子供と高齢者が利用の中心で、「ヤングアダルト」という層は、日ごろなかなか利用しづらい状況となっている。「交通が不便」ということもあるが、「17時以降に開いていないため利用しづらい」「ヤングアダルト向けの本が充実していない」ということも現状の問題としてあり、そのようなところも考察しながらヤングアダルト層を引き込みたいと考えている。今年度（H24）の取組として、田川市立図書館にはインターネットの端末がなかったため、インターネット端末を配置し、若い世代の方に来ていただくような工夫を少しずつ進めていこうと考えている。少しでも若い世代の方がインターネット利用で訪れてくれたら、そこから波及していくのではないかと思う。</p>
委員	<p>P26に「田川市立図書館年度別入館者及び貸出冊数等調」で平成18年度から平成23年度までの数値が出ているが、レファレンス数が非常に伸びており、平成18年度と平成23年度を比較すると約2倍になっている。なぜレファレンス数がこのように順調に伸びたのか。</p>
担当課	<p>嘱託職員がカウンター業務を中心にこなしており、経験5年以上の職員が増えたので、スキルアップしたからではないかと考えている。</p>
委員	<p>スキルアップはもちろんだと思うが、市民の方や利用者の方が聞こうと思わないと増えないと思うが、広報などの工夫があったわけではないのか。</p>
担当課	<p>カウンター業務のスキルの中には当然、接客の部分もあるので、聞きやすい雰囲気を作れるようになっているのではないかと思う。</p>

委員	先程の話では、「2階にイベントスペースがない」ということであったが、その立地場所を図書館内にこだわらなければならない理由はあるか。
担当課	立地にはこだわっていない。「レコードコンサート」は市民会館で行っている。また、「子供の読書リーダー推進事業」を行っており、学校の子供たちに読書リーダーになってもらい、読書の推進を図ろうという事業であるが、それについても部屋がないので、美術館の会議室を借りて行っているような状況。ただ、図書館に来てほしいので、図書館内でできるような部屋がほしいと考えている。
委員	【評価内容に関するコメント】「1 拡充（2）事業の手法、内容の拡充」と「2 見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。拡充については、ビジネス事業には全く手を付けられていない状況だが、開館時間を延ばすなど時間帯について予算等も含めて拡充すべき。見直しについては事業統合をすべきで、維持管理があつての運営であり、一連のつながりがないと維持管理も運営もできないのではないかと。そのようなことについても早く基本計画を進めてほしい。
委員	【評価内容に関するコメント】「2 見直し（2）事業内容、手法の見直し、④対象の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。要望としては対象の見直しについて、団体や他市町村の図書館、市内の美術館などの連携を含めて事業展開を進めていく必要があるのではないかと。もう一つ、手段の追加改善については広報を拡充していく必要がある。特に郷土資料の収集保存、それを市民が十分に利用できるような体制の促進をお願いしたい。それから、図書館に関するボランティアの方の育成の推進をしてほしい。大人も含めて図書館応援団をたくさん作っていく必要がある。また、開館時間の拡大については検討してほしい。現在の事業の見直しというわけではなく、その他のコメントのところに書いたが、指定管理者制度については、市民の権利や生涯学習に関わる施設なので、プラス面、マイナス面を十分検討してほしい。基本計画策定は、図書館の充実には良い機会なので、現在の課題をデータと共に検討して盛り込んでほしい。
委員	【評価内容に関するコメント】「2 見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑧その他」とした。田川の書店では漫画や雑誌が多いような気がするが、図書館は図書館としての役割があると思う。目的に準じて枠組みを超えた改革が必要となってくるのではないかと。2009年に田川青年会議所が行った調査では、市立病院について市民の方から意見をいただいたが、「待ち時間も改善できるので、市立病院の中に図書館を入れてはどうか」という意見もあった。0歳期教育なども含めて、支援センターなどと連携したような図書館の利用もあると思う。図書館事業だけでなく、他の部署との連携といった枠組みを超えて改善していくことが、今後、必要となってくるのではないかと。設備、電気料については、改築も視野に入れて移転する等、抜本的な柔軟な改革があってもよいのではないかと。
委員	【評価内容に関するコメント】「2 見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑧その他」ということで、指定管理者制度の導入とした。指定管理者制度の導入についてはもっと検討すべきこともあると思うが、もっと具体的に他の市町村の例も見ながら検討すべき時期だと思う。今、耐震調査をしているということだが、調査を具体的にどうするのか。国や県から補助金をもらえるということであれば、建て替えるということもあり得る話だと思う。建て替えのときに大規模にするのか。田川市の現状に合った規模をというのであれば、縮小して効率的な図書館建設の方がいいと思う。

<p>小委員長</p>	<p>【評価内容に関するコメント】「2見直し(2)事業内容、手法の見直し、⑧その他」とした。基本計画を協議会で今後検討するというので、その中で、きちんとやっていただけたらと思うが、蔵書構築方針をはじめとして、田川市立図書館としてのコンセプトが明確ではないということを受け止めた。コンセプトをしっかりとさせて、それに応じた図書購入の実施、イベントや企画の実施、それに直結するような管理運営を着実に進めてほしい。コスト、事業費の面で考えると、「一部業務委託の拡充」や「指定管理者制度の導入」などを検討しているということだが、さらにこの部分について検討を進めて、より効果的、効率的なものとなるよう、コストの縮減につながるような検討をしてほしい。その他のコメントとして記入したが、図書館の建て替えというのを視野に入れる時期だと思う。図書館の位置付けや物理的な問題もあると思うので、同様に文化課が所管しているような施設、その他、福祉関連、教育関連の施設などの建て替えと合わせて合築をして複合施設化する、そうすると他の場所への移転新築ということにもなるが、そのようなことを行うことで、市民サービスの向上や市全体のコストの縮減につながっていくと思う。全庁的な取組になると思うが、ぜひ進めてほしいと思う。</p>
<p>まとめ 小委員長</p>	<p>全体の意見の傾向としては、「見直し」という意見が多かった。その中で、拡充、内容の充実など、そのような視点は必要かと思う。見直しの方向性としては、より市民サービスの向上に資するような検討をさらに進めてほしい。図書館を支える市民の方々との連携を強めていくということや図書館の施設をより市民にとって利用しやすいもの、規模の縮小なども含め、田川市の実情、身の丈にあったものにしていくべきではないか。より市民に利用しやすいものにするためにハード面も考えていくべきではないか。このようなことが委員の意見の傾向であったと考える。</p>
<p>担当課</p>	<p>指摘されたことを念頭に置き、今後、基本計画を進めていきたいと思う。特に親しまれる図書館で、身の丈にあった図書館というのは、地域の実情に沿った図書館と解釈している。地域の実情に沿った図書館を構築できるような基本計画を作り、機会があれば皆様に見せたいと思う。</p>